

平成26年度 外部点検 会議概要

- 1 開催日時 平成26年10月9日(木) 14:05～15:05
- 2 開催場所 市役所本館8階 第3委員会室
- 3 出席者
 - (1) 委員 内山秀樹 委員(座長)、稲葉明美 委員、岡山宇太郎 委員、奥村清治 委員、澁谷政子 委員
 - (2) 点検対象事業担当所属 教育委員会事務局 少年自然の家
 - (3) 事務局 総合政策室
- 4 点検対象事業 少年自然の家運営事業
- 5 協議の概要

座長	<u>少年自然の家運営事業</u> について、所管所属の <u>少年自然の家</u> から説明をお願いする。
少年自然の家	【説明】
座長	ただいまの説明に対し、何か質問等はないか。
委員	指導係の方のスキルや資格、またどのような研修を受けられているのかというあたりを確認したい。
少年自然の家	指導係は4名、庶務を兼務している者を含めて5名いるが、資格というものは持っていない。市役所の一般職員が指導にあっている。ただ、県内に類似施設があり、そのなかで協議会を作っている。そこで、年に1回、持ち回りで職員を対象に研修会を開催しており、そこでスキルアップに努めている。 また、県内の協議会に属している団体については、東海北陸にもそのような施設が多くあり、そこでの協議会にも、予算の関係上1名だけであるが毎年1泊2日の研修に行き、よその施設との情報交換や活動内容の報告会もあるので、そちらでスキルアップに努めているというのが現状である。
委員	教育委員会事務局であるので、例えば自然科学系の分野の教員の方が関わることはないのか。
少年自然の家	ない。
委員	指導係が5名いるとのことだが、その他にも市の職員がいるのか。

少年自然の家	所長と主任を合わせて、合計7名の職員となっている。
委員	指導係の方が直接子供たちと関わるので重要だと思うのだが、市の一般職員が異動ではじめて来て、年1回の研修を受けるだけで、十分に子供たちへの指導ができるのであろうか。
少年自然の家	主に小中学校の受け入れ事業で、小学校5年生が1泊2日の宿泊学習で来る。そのときのプログラムは予め用意されており、学校とも1ヵ月前に打ち合わせをさせていただくなかでつめていく。異動してきた職員も担当することがあるので、そのときは必ず前からいた職員と2名で打ち合わせをしながら内容を決めていく。内容についても、直接子どもに接する前に、どういったことをやっているのかということ指導係のなかで課内研修をやりながら実際に小学校の指導にあたっていくという形をとっている。
委員	数制的なところを伺いたいのだが、小学校が4000人くらい、中学校が8300人くらいだとしたら、市内の学校の何割くらいが利用しているのか。
少年自然の家	小学校50校のうち、去年は33校の利用があった。今年度の計画もそれくらいである。
委員	その学校は毎年利用しているのか。
少年自然の家	そうである。
委員	参加していない学校というのは、声をかけていても参加しないのか。
少年自然の家	毎年声かけはしているが、結果的にはそうである。
委員	それは、6割は少年自然の家を利用しているが、残り4割は他を利用しているということか。
少年自然の家	県内には類似施設がある。学校によっては5年生の人数が20人くらいのところから100人以上の学校もあるので、人数的に多い学校だと例えば奥越の県の施設へ行くとか、学校の考えで市外の施設へ行きたいということで分散している。 どこの学校もやっていないということはないと思うので、残りの4割についても何らかの施設で研修活動をしていると思う。
委員	その4割、6割の割合というのは安定しているのか。
少年自然の家	だいたい市内の学校の6割は毎年利用している。学校の入れ替わりは若干あるが、ほとんどの学校はリピーターという形で、ほぼ毎年利用してもらっている。

委員

主催事業とネイチャー寺小屋事業について聞きたいのだが、表を見ると H21 年から H25 年にかけて、ネイチャー寺子屋の開催回数が半分に減っているように見えるが、実際に参加された方の評価は「まあまあ満足」まで入れると、ほぼ 100% という高い評価を受けている事業である。それに対して回数を増やしていけない理由というのはあるのだろうか。減っているということも含めて、なぜ減らしたのか、なぜ増やせないのかということについて、何か理由はあるのか。

少年自然の家

ネイチャー寺子屋というのは、冬場の閑散期に単講座をやるものになっている。ただ、保護者と一緒に来てもらうので、参加できる曜日が土曜、日曜、あるいは平日の夜間に限定されてしまう。閑散期とはいえども土日は一般の団体の利用もあるので、空いているときに実施している。ネイチャー寺子屋を多く開催すると、一般の方が利用できる機会が減ることにもなるため、回数を減らした。

委員

私も少年自然の家には小学校のときに行って大変ためになった経験をしたことがあり、こういう事業は継続していってもらいたいと思う。ただ、子供が減ってきているという現実を踏まえて、これからも継続していくためには何かないと駄目だと思うところもある。人数的な数字が毎年、徐々に微減という形になっているなか、何か増やすような仕掛けというか、5 年後、10 年後を踏まえて何か考えていることはあるのか。

それと、11 月から 3 月までの冬場にネイチャー寺子屋をやっているということなのだが、その部分でも新しい取り組みなどは考えているのか。

少年自然の家

まず利用者の減少については、少子化の影響で、学校の一学年の人数や、少年団体の構成人数が減っているのが影響しているのかと思う。団体数も減っているので、その影響もあるのかと思う。どうしても一般の団体だと、土日の利用に限定されて平日の利用は少ない。なるべく平日に利用できる方法がないかと思うが、小学校 5 年生のときに福井の小学校の 6 割ぐらいは利用してしまっていることで、中学校の利用というのが少ないのが現状である。そこで、こちらから中学校の遠足などで野外炊さんなどをして、平日の利用率をあげられないか PR をしている。ここ 2、3 年は、数は少ないが福井市内外の中学校の遠足で来てくれているので、そういう方向に力を入れていきたい。

土曜日曜については、ほとんど予約が詰まっている状態である。一度に 4 つ以上の団体を入れることができない。例えば 20 名の団体だと、少年自然の家は 200 名泊まれるので、10 団体入れるという単純計算になるのだが、使える施設が競合してしまうので、正直、2~3 団体しか入ることができない。やはり平日に利用していただく方法として、一例をあげると中学校の遠足とかを考えていかなければいけない。

ネイチャー寺子屋についても、土日開催が多いが、できれば平日夜間に親御さんと一緒に来てくれるような企画をしたい。屋外だと天体観測もいいのだが、少年自然の家は自然体験というのを目的にしており、夜にあのあたりを歩くというのは危険なため苦慮している。屋内でできることは、自然体験に直接結びつけようと思うと難しいところもある。

委員	<p>受け入れ事業は各学校の先生が予定や日程を組んでくるので、職員が手を煩わせることはないのだと思うが、主催事業について、例えば資料の8ページに今年の実績が書いてあり、7ページに25年の実績が載っているのだが、あれだけの建物と設備があるのに、募集する組が最初から少ないように感じるのだが。</p>
少年自然の家	<p>子どもを集めて行う事業は、定員50名で募集しているが、活動内容には必ず薪でカレー作りやごはんを炊く野外炊き活動をどこかで入れるようにしている。そのときの安全管理の面などを考えると、釜戸の数が現在24基あるのだが参加者が100名くらいで、それを全部使って炊きをする、職員7名では目が行き届かない。</p> <p>大学生のサポーターについても年に1回は研修をして野外炊きの実践をしてもらい活用しているが、サポーターの方も全員が研修に参加できるわけでもないので、スキルの面で完全に任せてしまうのは難しい面もある。参加人数が100名、150名というのは難しいので、現在は50名の募集をしている。安全管理など、いろいろな面を考慮してやっている。</p>
委員	<p>私もこの運営委員の会長をしていたから分かるのだが、昭和60年から平成元年、2年あたりだが、まだまだ人数は多かった気がするのだが、50名とか6組とかいう数字が少ないような気がした。常時7名の職員プラス一般市民の協力者を得ればできることなのか。大学生とか、教職員を退職された方とか、ボランティアの方がたくさんつけば、もっと子供たちを受け入れられると解釈すればいいのか。</p>
少年自然の家	<p>おそらくサポーター的な方を増やすことに比例して充実したものができるかという、個人的な意見としてはそうではないと思う。</p> <p>やはり、本所の職員だからこそできているという部分はかなりあるので、職員ができることは他の人もできるだろうということではないと思う。確かに経験を豊富にしてサポートしていただく形というのはこれから考えていくべき手法であると思うが、現状では、まだ難しい。</p>
委員	<p>少年自然の家で勤務されて退職された方もたくさんいるので、経験をされたかたも多いと思うのだが。</p>
委員	<p>内容について、マンネリにならないように工夫はされていると思う。ある程度スキルのいる企画だと思うのだが、例えば野外活動の指導ができるような方を呼ぶようなことは毎回は無理だと思うのだが、していることはあるのか。</p>
少年自然の家	<p>主催事業では年に6回開催の内4事業で講師を招いている。例えば4月にやっている「親子のんびり塾」では、野草をつんできて天ぷらにして食べましようというものなので、野草について詳しい方に来ていただいたり、他の主催事業においても、天体観測や間伐体験など。</p>

委員	そういうところをもっと充実させたいという想いは持っているのか。
少年自然の家	子どもに体験させるようなことを他にも考えており、その都度講師の方をお呼びしてやりたいとは思っている。
委員	これはやってみたら上手くいったというプログラムがあると思うのだが、県内の関連施設でそれをお互いに共有し合うということはあるのか。
少年自然の家	年に1回、指導係が集まる研修会というのがあり、持ち回りで開催している。研修会では、そこの施設で上手くいったという事例を紹介しているので、福井市で開催したときもやっている。
委員	支出、決算額は書いてあるが、利用料収入がどれくらいになっているのか。
少年自然の家	収入については、H25年度で86万6千円が少年自然の家の使用料である。雑入というのがあり、主催事業の参加費とか受け入れ事業の教材費が146万8千円である。合わせると233万4千円になる。
委員	20%くらいの収入ということになる。さらに人件費も入ってくるから、民間だとかなり厳しい。例えば年間、受け入れや宿泊も含めて感覚では最大でどれくらいいけるのだろうか。受け入れは倍くらいいけるとか。
委員	その前に、主催事業とネイチャー寺子屋の目標設定が主催事業が40～50人、それに対して50近いのもあれば30そこそこで止まっているのもある。ネイチャー寺子屋についても6組参加目標20人に対して、そのあたりで推移するという形なのだが、それに対して集める苦労というのはしているのか。私もいろいろな事業をするのにあたり、参加者を集めるのにすごく苦労をする。普通に市政広報等で広報するだけでこれだけ集まるのか。
少年自然の家	市政広報の他に、小中学校や公民館等にチラシを配っている。
委員	それでだいたいこの人数は集まるのか。それ以上に声掛けとか職員が呼んで来たりするという苦労はないのか。
少年自然の家	募集人員に満たない時には、庁内広報を通して職員とその子どもが参加することもある。
委員	そういう問題も含めて、主催事業やネイチャー寺子屋を増やすことを指摘されているが、満足度は高いが、人員などの問題で増やせない。募集をするときに募集の仕方に問題があるところがあって目標に達しない。だからいくら主催事業を増やしても参加者が少ないのでは駄目なので、問題解決する視点をきちんと分析

少年自然の家

し直して、まずは同じ事業でもいいのだが、一人でも多く参加してもらおうというのが基本である。このへんの努力は目標を通じてしていかないといけない。満足度が100%なのに目標に達していないということに視点をおいて、企画内容はいいのだから、公募の仕方とか、人を呼んでくる方法に問題点が隠されているのかと思う。

ときどきだが、県内の類似施設で同じ日に事業が重なることもある。他には小学生だと、8月の場合、連体の練習に重なってキャンセルになったとか、そういう細かいことが重なって残念な結果になるということもある。我々が常日頃考えているのは、PRの仕方などについてもっといい方法があるのではないかということである。正直、今日この場で皆さんのいいお知恵を拝借できたらと思っている。

～～ 委員同士での協議 ～～

～～ 総括 ～～

内山座長

4人が「維持（要改善）」、1人が「拡大」という結論になり、委員会の結論としては「維持（要改善）」ということになった。拡大と書かれた方については、更に事業内容、サービスを拡大してもらいたいという期待という意味で拡大とされた。問題の洗い出しと本気の改善、行動をお願いしたい。

利用者数が伸びないのは、条例の設置目的の枠の中で安住しているからではないか。施設、運営、企画の魅力を最大限伸ばさないと、市民活動団体やNPOなどが類似の自然教育のサービスを行っているので、そこに負けてしまうのではないし、または、そこと連携することも考えて取り組んでももらいたい。

職員の企画力の向上というのが必須になるので、今までの研修だけではなく、いろいろなところの研修、研究を通じて取り組んでももらいたい。運営に参画する方についても、できれば現場の自然教育に関心のある教職員、自然教育系のNPOという方の参画ができるようにしてもらいたい。単なる協力ではなく参画を。

企画力、魅力付けといった点で抜本的な改善をお願いしたいというのが意見である。結論的には維持ということだが、予算的にも今の水準以上は難しいと思うので、収入を230万円から500万円くらいになるように努力していただきたい。

以上である。

平成26年度 外部点検 会議概要

- 1 開催日時 平成26年10月9日(木) 15:10~16:00
- 2 開催場所 市役所本館8階 第3委員会室
- 3 出席者
 - (1) 委員 内山秀樹 委員(座長)、稲葉明美 委員、岡山宇太郎 委員、奥村清治 委員、澁谷政子 委員
 - (2) 点検対象事業担当所属 企業局 簡易水道課
 - (3) 事務局 総合政策室
- 4 点検対象事業 越廼簡易水道管理事業、民営簡易水道維持管理事業
- 5 協議の概要

座長	<u>越廼簡易水道管理事業、民営簡易水道維持管理事業</u> について、所管所属の簡易水道課から説明をお願いします。
簡易水道課	【説明】
座長	ただいまの説明に対し、何か質問等はないか。
委員	資料3ページに実施費用という項目があり、「①越廼簡易水道管理事業」「②民営簡易水道維持管理事業」とある。越廼は経費と財源が書いてあるのだが、民営簡易水道維持管理事業については、経費は書いてあるが財源が書いていない。財源はないのか。
簡易水道課	民営は各組合が経営しており、水道料金は市のほうには入ってこない。それで、ここにかかった費用については、市の費用で行っている。
委員	1,000万円ほどは市が負担しているということか。
簡易水道課	そうである。
委員	地図を素人目でみると、国見と越廼はそんなに離れていないようだが、水道施設の本管を国見から越廼へつなぐことはできないのか。
簡易水道課	H21年度に簡易水道の統合ということを考え、コンサルタントへ委託し試算したところ、約15億かかるということだった。企業局の水道事業所管との話し合いもしたが、その分上水道の料金に負担がかかるということで難しいのではないかと考えた。

	<p>水道管をつなぐだけでなく、水をポンプで上にあげなければならない。</p>
委員	<p>越廼簡易水道について使用料を引くと、交付金を1,000万円ほど投入している。また民営のほうも1,000万円ほど投入しているということだが、規模的には、対象人数などはだいぶ違うのか。同じくらい行政が出さないとやっていけないのか。</p>
簡易水道課	<p>越野簡易水道への臨時交付金については、国からの経済対策という側面もあり、全額を足りない部分に使っているわけではない。決算額がH24年は2,000万、H23年も2,000万円ということで、大きな工事があると増額されることがある。</p>
委員	<p>H25年は改修工事をしたからか。</p>
簡易水道課	<p>そうである。増額したからといって必ずしも市費が投入されているわけではない。工事が無い年でも若干市費が投入されることもあるので、その年の状況によって変わりはある。</p>
委員	<p>だいたい使用料は一定という考えでよいのか。</p>
簡易水道課	<p>例えば、H25年度にあった臨時交付金については工事に使っているが、仮に改修工事を行った場合にも交付金がない場合もあるので、そういうときには利用料金だけでは足りなくなる場合もある。</p>
委員	<p>たまたまインフラの整備改修が多い時と日常的なランニングコストについてはペイできるように料金設定をしているのだろう。</p>
簡易水道課	<p>そのレベルには達している。</p>
委員	<p>民営簡易水道維持管理事業であるが、約1,000万円ほど市が持ち出しをしている。利用料金は組合に入っている。組合に入ったお金はどうなっているのか。</p>
簡易水道課	<p>組合で維持管理をしている。配水池等の清掃もあり、高齢化も進んでいるので業務委託する場合もある。</p>
委員	<p>組合が集めた水道料金の監査は市ではしているのか。</p>
簡易水道課	<p>そこまではしていない。組合自体に市から補助金を出してはおらず、20組合が作った協議会に市のほうから60万円補助を出している。そのなかでの監査は行っているが、各組合がどのような運営をしているのかというのは、市は把握していない。</p>
委員	<p>水質検査については、900万ほどは持てないので、行政が負担しているという</p>

	ことか。
簡易水道課	そうである。
委員	水質検査における情報公開の方法というのはどのように行っているのか。また、水質検査において何かがあった場合、どのように知らせているのか。
簡易水道課	<p>越廼については、福井市のホームページで水質の検査計画と結果を公表している。現在、準備段階で公表が遅れているところはあるが、HP等で公表させていただくことになっている。</p> <p>民営については、各組合での管理が基本であるため、水質検査の公表は行っていない。しかし、水質検査の結果については、県には報告している。当然、組合長にはお知らせし、技術的な指導が必要な場合には簡易水道課の職員が行き、組合と話をしながら改善をしている。</p>
委員	それは指導に行くだけで、経緯を公表することはないということか。
簡易水道課	そうである。
委員	越廼と民営と福井市の公共の水道と利用料金にだいぶ差はあるのか。サービスに対する負担を考えた場合に差があるのか、それとも差がないようにして設定しているのか。
簡易水道課	上水道と簡易水道の料金は同じである。
委員	民営のほうはそれぞれでおまかせということか。
簡易水道課	そうである。
委員	相場的にはどれくらいか。
簡易水道課	聞き取りでは調査しているが、20組合あるうち、6組合はメーターをつけているが、残り14組合はメーターもつけていない。自治会費で補っているところもあるし、月々いくらかの金額を収めているところもある。市としては、あまり強くは言えないのだが、メーターをつけてもらうようお願いはしているが、経費がかかるため、難しいところもある。
委員	方向性としてはやはり、ここでのサービスというのは安全であるということが最大で、あとは水が止まったりしないという供給の安定性ということだと思うが、それを確保するためには、今の民営のほうはかなり危うい状態にあると受け止められる。私が昔住んでいたところも民営で、大雨が降ると水道水が濁るといったことがしょっちゅうあった。そういう意味で、安定性、安全性とそれに対する

	<p>応分の負担というものを民営のほうにも考えていく必要があるのではと思う。</p>
簡易水道課	<p>目的について、安全と安定なのだが、安全に供給されているかというところに視点を置くと、この水質検査で今のところ大丈夫である。たまに、一般細菌が入ったときにはすぐに組合長に話をしたり、いろんな手法で指導をさせていただいているので、今のところは安全な水が民営であっても供給されている。上水道の水と民営の水が同じ条件かという、取水も違うし濾過の過程も違うので若干違ってくることもあるが、今のところは目的を達していると考えている。</p>
委員	<p>民営の水源というのは自然水というか山からの水だと思えばよいのか。</p>
簡易水道課	<p>そうである。山水か湧水で、井戸水も一部ある。多少不安定である。</p>
委員	<p>これを公営簡易水道に移行する考えはあるのか。</p>
簡易水道課	<p>H23年8月に、殿下地区を中心に組合長や自治会長に集ってもらい、民営から公営に移行する勉強会を開いた。その時には、どうしても事業をやろうと思うと負担金、加入金など費用がかかり、水道料金も上水道と同じ料金になって今まで以上の料金になるということで、そのときには機は熟していなかった。それから説明をする旨の投げかけはしているが、それ以降、民営の組合からの説明会の要望はない。やはり負担を考えた場合、少し難しいのかと感じている。</p>
委員	<p>お金の話が出たが、民営のほうに1,000万円ほど毎年持ち出している。人数をみると933人であるから、1人につき、1万円ほどかかっている。福井市全体の水道事業の市民負担からいけば何倍くらいにあたるのか。おそらく、福井市の水道事業は独立採算でいっているのに、民営のところについては毎年1人につき1万円ずつ負担していくことに対して、どこかで考えなければいけないのではないか。</p>
簡易水道課	<p>越廼について、今まで施設を作って借金などをしている費用も合わせると、必ずしも越廼がペイできているわけではない。</p> <p>民営は確かに費用がかかるのだが、水質検査は水道法で決まっています月に1回しなければいけない。925万2000円を20で割ると約46万3000円になる。ただ、これを民営だと、大小あり2、3件しかない民営もあるため、そういったところにこのような費用負担をとると、なかなか難しい。かかる費用は同じだが、そこに住んでいる住民がいるので、行政としては過剰なサービスではないと考えている。</p>
委員	<p>生存権的なものにも関わる。</p>
委員	<p>今回の資料に美山簡易水道が入っていないのは。</p>

簡易水道課	今回の対象事業となったのは、越廼簡易水道事業であったため、越廼を中心に説明させていただいた。基本的には美山も同じような状況である。
委員	昨年度越廼で、大規模な改修をしたようだが、経年劣化とか老朽化とかそういう問題は今のところないのか。
簡易水道課	越廼の1,500万について、これは北部簡易水道といい、茱崎あたりの3地区を集めたところなのだが、その設備を改修した。越廼も美山も昭和40年代に作られた施設が多く、追いつかない状況である。
委員	H26年度の予算はどれくらいの規模になるのか。毎年、このような改修工事を入れていくのか、5年に1回するのか。
簡易水道課	26年度予算では、3,185万4000円を予定している。これは、浜北山という施設で水が足りない、水が濁るといことがあるので、ここに浄水設備を設置したいと考えている。
委員	資料4ページの事業目標の設定だが、越廼をみても、施設の改修とか具体的な事業が書いてあるが、目的としては、水質の安定とかトラブルがないようにするとか、そういったことだと思う。そして達成状況としては、改修を終えて安定して水が供給できるといった流れだと思う。民営についても、水質検査を年12回するのが目標ではなく、水質の安全性を高めるということが目標である。数値目標を無理してだしているが、目標はやはり安全性と安定である。

～～ 委員同士での協議 ～～

～～ 総括 ～～

座長	<p>委員会結果は「維持」となった。ほとんどの委員からは改善などの意見が言いづらい事業であるというご意見であった。特に気になるのは、越廼、美山のほうは旧町村の時にそれぞれ独自の投資をしていたと思うが、殿下地区や一光地区など旧福井市の西側について、特に取り残され感があると受け止められる。</p> <p>美山や越廼も高齢化は進んでいるが、殿下も高齢化が著しいところであるので、今の水道のサービス水準が維持できなくなるとか、安全性や供給の安定性にばらつきが出てくるとかという問題も生じる可能性が高いと思う。</p> <p>H23年度に地元と勉強会をしたときには公営簡易水道の必要性はないということであったが、やはり継続的にどうあるべきかということ、地域づくりのことも含めた広い視点から引き続き地元と一緒に検討していってほしい、適正なサービス水準ができるように対策を練っていただきたいというのが意見である。</p> <p>以上である。</p>
----	--

平成26年度 外部点検 会議概要

- 1 開催日時 平成26年10月9日(木) 16:10~17:10
- 2 開催場所 市役所本館8階 第3委員会室
- 3 出席者
 - (1) 委員 内山秀樹 委員(座長)、稲葉明美 委員、岡山宇太郎 委員、奥村清治 委員、澁谷政子 委員
 - (2) 点検対象事業担当所属 商工労働部 おもてなし観光推進室
 - (3) 事務局 総合政策室
- 4 点検対象事業 愛宕坂にぎわい事業
- 5 協議の概要

座長	<u>愛宕坂にぎわい事業</u> について、所管所属の <u>おもてなし観光推進室</u> から説明をお願いします。
おもてなし観光推進室	【説明】
座長	ただいまの説明に対し、何か質問等はないか。
委員	目標を達成できなかった4月の天候不良の問題、あれは痛かったと思う。目標を達成できなかった理由を把握されて目標に結びつけているのだなと思った。ただ、今後の方向性として拡大というのは、他の関連事業とかこれからの駅周辺を含めての導線とか、足羽山、足羽川の魅力づくりにつながっていくために拡大という方向性で考えられているのだと思うのだが、目標設定をどこに持っているのかを知りたいところである。 これから拡大するにあたって目標設定を入場者数とかそういうところで持ってくるのか、何を目標として拡大としていこうとしているのかというところを聞かせてもらいたい。
おもてなし観光推進室	まず、資料で示したのは館の入場者数だが、灯りの回廊そのものに対しての入場者数も把握している。その数も把握しているのだが、実は灯りの回廊で通ってくれた方で、館のなかに入場された方の数も把握している。その数をもっと増えるとよいと思っている。H25年度までだと、年間の入館者数を365日で割ると1年間で(1日平均)5.2%くらいになるが、灯の回廊期間中に入館していただいた方の数が、25年度だと(1日平均 全体の)12%あった。年間の入場者数のうちの本当にフラットなら5.2%だが、12%入ってもらったので、普段、茶道美術館や文学館に立ち寄らない人でも、このにぎわい事業によって通って入ってくれて

委員	<p>いるのかと思う。その通りかかった方の何%が館の中に入っていたのかというところが、もっと努力すべきところなのかと感じている。</p>
委員	<p>私も愛宕坂は笏谷石が敷いてあるので鑑賞に行くし通るのだが、ひとつ疑問に思うのは、事業主体が福井市と書いてあるが、この事業をなぜ行政がしなければいけないのか。</p> <p>例えば、歴史のみえるまちづくり協会が実施主体でもいいのではと思うし、または地元の足羽地区まちづくり委員会がしてもいいのではないのかと思うのだが、なぜ市がしなければいけないのか。</p>
おもてなし観光推進室	<p>事業実施主体は福井市で、実際にこの仕事について市の職員も担当が1名いるのだが、主体的に現地でミニコンサートをしたりお客さんの対応をしたりしてくれているのは歴史のみえるまちづくり協会である。この協会は橘曙覧記念文学館と、愛宕坂茶道美術館の管理運営をお願いしている財団である。この財団のかかる経費については、おもてなし観光推進室のほうからの業務委託であったり、補助金という形で運営をしている。</p> <p>足羽山のにぎわいということについては、住民の力を借りたらよいのではないかというご意見はもっともだと思う。類例を申し上げますと、昔、足羽山の上で桜の時期にぼんぼりを掲げていたのだが、このぼんぼり事業について、残念ながら市では休止をしたところ、地域住民の方がぜひぼんぼりを復活させたいという想いで費用を持ち寄り実施していただくことになった。ただ、若干予算が足りないという声もあったので、少し応援をさせていただいているが、住民の方で実施してもらっている。それが理想であるのはそのとおりだと考えている。灯りの回廊についても、住民の方とコラボしたほうがいいのではないかということ、今ご意見を伺い、そうだなと感じている。</p>
委員	<p>歴史のみえるまちづくり協会のミッションがまさに歴史のみえるまちづくりを進めるということなので、ここが主体となってしまうことは無理なのか。</p>
おもてなし観光推進室	<p>この団体の収入は、抹茶を売るなどの収入はあるが、基本的な事業収入というのは、市からの受託事業と補助金で行っている。この事業主体が歴史のみえるまちづくり協会となっても全くかまわないのだが、その財源的にはおもてなし観光推進室で出すことになる。</p>
委員	<p>このような事業を企画、実行するノウハウやスタッフはいないのか。</p>
おもてなし観光推進室	<p>もちろん、いる。この事業でいうと、ライトアップの部分をおもてなし観光推進室の担当が行っている。ミニコンサートとか開館時間の延長や灯りに関する展示会については、協会の学芸員さんや職員の方が知恵をしぼって、今年は食をからめて近くの離世でやってみようとかか企画していただいている。決して、全然携わっていないということはない。職員と手を携えて実施している。</p>

委員	<p>地元との足羽地区とはどういう関わりがあるのか。</p> <p>市はまちづくり国際課が中心となって、それぞれの地区ごとにまちづくりをやっているが、足羽地区とはどのようにつながりがあるのか。</p>
おもてなし観光推進室	<p>にぎわい事業については、直接足羽地区の方々と連携して行っていることはないのが実態である。足羽山のにぎわいという点では、先ほど言ったぼんぼりの事業とかでは連携しているが、今回の事業については特にはない。</p>
委員	<p>足羽山の愛宕坂、横坂はライトアップしているが、百坂はどうか。橘曙覧記念文学館と愛宕坂茶道美術館、そして水道記念館のトライアングルができるのだが、どうして2方向だけなのだろうといつも思う。</p> <p>行燈の数が140個しか作れないとか、毎年毎年140個を使いまわして13年間きて、新しく行燈を作るお金がないから、百坂や水道記念館まで範囲に入れられないのかという理由もあるのか。さきほど拡大の理由は何かと聞いたのは、そこである。他の夜間景観ウォークとか、他の足羽山関連の事業とのからみの中で拡大していくのは望ましい方向性だと思うし、私も拡大してほしいと思っているが、目標が見えない。基本となる施策のなかでプラスαを持ってこれるのが水道記念館だったりするが、その事業費をプラスして拡大していく目標が見えない。</p> <p>もちろん、ライトアップ事業や愛宕坂のにぎわい事業としての目的というのは果たしているし、継続という意味では、市がやっている意味もあるのだと思うが、今後のビジョンとして百坂とか市の関連施設とか地域性というものの目標達成というところがみえてこない、拡大と今の段階で言えるのかは疑問が残る。</p>
委員	<p>観光という分野だけではなく、都市公園的な足羽山全体という話や、足羽山に関わる他の部署とかも含めた連携や広がりを考えないといけない。</p>
委員	<p>そういうところも含めて拡大と言っているのか、それともただ愛宕坂を中心としたところでの拡大と言っているのかが見えてこなかった。</p>
委員	<p>地元こだわりののだが、地元にしてみれば、よそ者が地元へ来て地区で何か騒いでいると捉えられてしまうのではおかしい。やる以上は地元の人参加を促す、地元の人にも手伝ってもらい、それがよそから人を集めてくることにつながると思うので、地元の町内も自治会も何も知らないでことを進めるのはまずいのではないかという気がする。</p> <p>たぶん企画は歴史のみえるまちづくり協会が企画しているのだと思うので、その企画にも地元の人を参加させるとかすればよい。ろうそくの火を管理するのもお金をかけて業者に頼まなくても地元の人がボランティアでやってくれるかもしれない。それだけ参加者が増えてくると思うので、私は地元を巻き込んだ、にぎわい事業をやってもらいたいと思う。</p>
委員	<p>私も同意見であり、いつかは発展していくという意味で離す時期が来ると思うが、そのためにも地元の人がやる気にならないといけない。福井駅からの導線で</p>

委員	<p>何かストーリーを作って上手く動かせるような考えも地元の人を巻き込んでやったほうが、今後の発展や拡大をしていくうえでも力になるのではないかと。</p> <p>今の事業を続けるというイメージしか受け取れない。例えば和ろうそくというところにこだわると言っていたのだが、言われればそうかと思うが、よく分からない。福井で伝統的に作っている業者とタイアップして和ろうそく作るとか、子どもが作った行燈を置くとか、もっといろんな工夫ができると思う。13年から始まってここまで来たので、ちょっとまた一歩というか、いろんな研究をしてはどうか。かなり可能性があると思うので、期間を延ばすだけで拡大と言われてもちょっともの足りない感じがする。</p> <p>あと財源について、歴史のみえるまちづくり基金から500万からということだが、さっき市のほうでもこちらの財団にお金をだしていると言っていたと思うのだが、毎年、この財団に補助は入れているのか。</p>
おもてなし観光推進室	<p>この財団はこのイベントだけでなく、通年の展示をしたり、学芸員の給与にあてたりとかがあるので、市のほうで支援している。</p>
委員	<p>そうすると500万円のうち、実際に毎年市が負っているお金というのは、500万なのか。毎年、市が出しているのは500万円なのか。</p>
おもてなし観光推進室	<p>このふるさとづくり基金（歴史のみえるまちづくり基金）というのは、歴史のみえるまちづくり協会が持っている現金ではない。市には様々な基金があるがそのなかの歴史のみえるまちづくり基金というのをおもてなし観光推進課がもらってきてそれを財団に渡して実施している。</p>
委員	<p>市が全部管理しているということか。</p>
おもてなし観光推進室	<p>そうである。名称が非常に良く似ていてまぎらわしくて申し訳ないのだが、この基金は財団が持っているというものではない。</p>
委員	<p>入札は電子入札などを行っているのか。匿名なのか指名なのか。</p>
おもてなし観光推進室	<p>ライトスタッフについては、灯りの灯籠の管理もしてもらっていて、そのもの自体を持っている業者なので、随意契約という形で毎年お願いしている。歴史のみえるまちづくり協会については、館の開館時間の延長、その他業務、あと展示内容もそれに合わせて工夫していただく関係でお願いをしており、チラシやポスターの作成については、その都度、市から適正なところへ発注をしている。また、ミーティング事業というのがあり、市役所で何か事業をする際に、ボランティアやNPOの団体に何か仕事を依頼したいことはないかといった場合に、どなたかご紹介いただけないかといった形でださせてもらっているところ、子どもNPOセンターを紹介していただいている。</p>

委員	<p>ライトスタッフという業者は、灯籠を持っているということでお願いしているようだが、こういうところは県内ではここしかないのか。</p>
おもてなし観光推進室	<p>使っている灯籠については長らくここでやってもらっていて他ではない。</p>
委員	<p>13年間同じところでやっているのは問題である。普通だと市の監査で引っかかるのではないか。</p>
おもてなし観光推進室	<p>財務会計規則で随意契約をすべて禁止しているわけではないので、今申し上げた理由で随意契約の決裁をし、させてもらっている。他にもっと低廉なところを求める努力をすべきということについては、そのとおриだと思う。</p>
委員	<p>愛宕坂茶道美術館と橘曙覧記念文学館の入場人数なのだが、H23年度の18,481人をピークに下がってきている。何か取組の変化というものはあるのか。</p>
おもてなし観光推進室	<p>H23年4月に橘曙覧記念文学館で2,200人ほど入場人数が増えている。そのときの「しかけ絵本」という企画が好評で、入場者が増えた。</p>
委員	<p>今後拡大するためには、足羽山全体をとらえて、もちろん地域住民を巻き込んでいくということが必要である。足羽山の愛宕坂というのは歴史性のあるところであり、地域の財産であるはずなので、地域と接点をつくっていないというのは、ずっと行政が担っていかざるを得ない状況を自ら作り出してしまっている。地元とコミュニケーションをとって参加を促したり、そういったことはやってきているのか。</p>
おもてなし観光推進室	<p>この事業については、特にない。もちろんライトアップ期間前に今年もイベントをやるのでよろしくお願ひしますということは通り沿いの方には説明をしてみわっている。</p> <p>まだ実験的で未確定な話ではあるのだが、里山を守る会というのが地元があり、それが今年、竹を使った灯りというのをこの灯りの回廊に続く部分で今回実験的にやるようだが、その動向次第ではそういった団体との協力はでてくると思う。</p>
委員	<p>市役所内でも駅前を含めたにぎわい創出にいろんな事業をやっていると思うが、そういう担当が集まって情報交換などをする場はあるのか。</p>
おもてなし観光推進室	<p>ある。例えば、一乗谷朝倉氏遺跡に関連するような教育委員会、観光、道路や農業など様々な課が集まって、来年度事業について意見交換している。</p> <p>また、年末になるとライトアップがいろんなところで始まる。商工サイドから商店街を通じて商店街でライトアップをやっていただいたり、公園課が造園業者とタイアップして中央公園のライトアップをしているとか、観光のほうでは養浩</p>

総合政策室

館庭園のライトアップを行っており、中心市街地振興のチームでも毎年、西武の前のクリスマスツリーのライトアップを行っている。これがいかにもバラバラだなという気持ちがあったため、連絡会的なことをやり、時期を合わせたり、統一のパンフレットを作ったりした。みんな財源や所属、関連団体がバラバラであるが、市民の方からすればライトアップはどかがしようとも一緒なので集まって、パンフレットを一緒にしようとかという努力はしているところである。すべての事業にそういういい取組があるかという、なかなかないところも多いのが実態である。

県と市で作っている県都デザインというビジョンが、H25年3月くらいにできた。それに基づいて駅から県庁、養浩館、それから足羽山への導線を結んだ全体の計画があり、それを基に全体の管理をしていく。中央公園については御座所関係の整備をする計画があり、足羽山は、その手前の足羽川を活性化させる計画を県都デザインの下で作し、それに基づいてここ何十年間かをかけてやっていく。

～～ 委員同士での協議 ～～

～～ 総括 ～～

座長

比較的委員の意見はまとまっていて、委員会結果としては「拡大」となった。今の愛宕坂にぎわい事業のエリアだけの事業拡大という意味ではなく、足羽山全体の魅力付け、にぎわい付けということを含め、さらに足羽山だけでなく、足羽川、中心市街地を含めた、例えば歴史の見えるまちづくりということが見えるような広がりを持ってとらえていかないと駄目だろう。先ほど連携されているという話もあったが、ここだけとらえて議論するのではないだろうというのが、ひとつの意見である。

足羽山というのは福井市民の心の拠りどころであり、かつ、緑だけでなく歴史性や笏谷石など産業遺産的なところもある場所なので、もう一度福井市民の財産としての足羽山という視点でとらえなおすということが必要なのではないかと、いうところが一点。あと、関わる、参画するという顔ぶれにやはり市民住民の参画というのが不可欠であろうと思う。

持続的な取組を考えると、いつまでも行政が同じようなレベルに関わり、出資、投資をするというのはできないと思うし、またすべきでもないだろうというところがある。特に地域住民の方には、やはり足羽山というのは我々の財産だということで、自分たちも汗を流す、負担もするといったところまで発展していただかないと持続的できないだろう。

対象の拡大と、関わる層の拡大についてを改善目標として積極的、前向きに取り組んでいただきたいというのが、拡大に付け加えたい意見、提言である。

以上である。

平成26年度 外部点検 会議概要

- 1 開催日時 平成26年10月9日(木) 17:10~18:10
- 2 開催場所 市役所本館8階 第3委員会室
- 3 出席者
 - (1) 委員 内山秀樹 委員(座長)、稲葉明美 委員、岡山宇太郎 委員、奥村清治 委員、澁谷政子 委員
 - (2) 点検対象事業担当所属 商工労働部 おもてなし観光推進室
 - (3) 事務局 総合政策室
- 4 点検対象事業 著名作家紹介特別展開催事業
- 5 協議の概要

座長	<u>著名作家紹介特別展開催事業</u> について、所管所属の <u>おもてなし観光推進室</u> から説明をお願いします。
おもてなし観光推進室	【説明】
座長	ひとつの事業だけの評価なので、評価しづらいところはある。記念館全体の事業であれば目的などの視点から評価できるのだが。ただいまの説明に対し、何か質問等はないか。
委員	H25年度の10月に行ったということは、著名作家の企画展として人が入っているのではなくて、愛宕坂のライトアップやにぎわい事業で人が入っているのではないか。企画展の実績が1,700人となっているが、3日間の入場者数と他の期間の入場者数の割合をみないと、愛宕坂のにぎわい事業で人が入っているのだとしたら目標を達成しているといっても疑問である。
おもてなし観光推進室	展示期間は灯りの回廊に合わせた期間にスタートしている。10月11日から11月24日まで44日間実施している。灯りの回廊で来られた方が入館しているのではないかということについて、館の入館者についてはそのとおりである。さきほど申し上げた、この展示の入場者数というのは館のところへ入ってきた人は入ってきた人で数えているのだが、第一展示室へ入ってきた人も数えているので、やはりこの特別展は人気があったと考えている。
委員	料金をとっていたと思うが。
委員	無料開放の日もあったと思う。

おもてなし観光 推進室	<p>先ほど申し上げたことに修正点がある。</p> <p>常設展以外の企画展はその期間はそれしかやっていないので、その日に入った方イコール特別展に入られた方としている。確かに灯りの回廊でなるべく愛宕坂に来ていただいて入館をしていただくところもあるので、単純にこの企画だけでということにはいかないと思うのだが、この灯りの回廊と関連してそういうイベント、特に今年だと竹取物語という季節性も合わせてお月見だとかそういったことを企画することで相乗効果もあると思う。</p>
委員	<p>確認なのだが、実施費用は130万円とある。1,700人が200円払って入ったとなると、34万円の入館料が入ったことになる。そうすると、一人につき700円ほどの負担になる。ペイしようと思うと、3,000人くらい入らなければいけないことになる。そういう考え方でいいのか。</p>
おもてなし観光 推進室	<p>そうである。</p> <p>純粋に民間的な収支の完結性ということでいうと、ご指摘のとおりのようなことになる。なるべく多くの方に親しんでいただくということから、かかった費用を全額収入で回収しようという考え方は今は持っていない。</p>
委員	<p>ただ、1,700人、1,800人という実績がでていることからすれば、決して手が届かない数字ではないのではないかと。期間を延ばすとか。</p>
おもてなし観光 推進室	<p>輸送コストがどうしても高くなる。展示物は借り物であり、貴重なものだと、それ以上展示に耐えられないということで3ヵ月くらいで行っている。</p>
委員	<p>確かに採算性が合わないから市が行う必要があるのだが、できるだけ採算が合うように努力はしていないと。</p>
委員	<p>その期間中に講師を呼んで講演会を行うことは昨年はやっていると思うのだが、今年は10月11日と16日に展示の解説を30分だけしていた。なぜ2回しかしないのかが疑問だった。講師の先生を呼んで人を呼ぶなら分かるのだが。</p>
おもてなし観光 推進室	<p>今年の2回というのが講師を招いて行ったものかどうかは分からないのだが、講師を招いて特別に講演会を行い、それとは別に学芸員が常時いて説明もしている。また、すべての方ができるわけではないが、橘曙覧に関することについて語り部というボランティアの方も、歴史のみえるまちづくり協会と関わりがあるのでお願いすることもできる。</p> <p>講師はその回数、その時間をやるということでお願いをしている。</p>
委員	<p>では、学芸員ではなくて違う人が講師として来ているということか。</p>
おもてなし観光	<p>学芸員は常時いて、講師は特別に頼んでいる。学芸員は求めに応じて説明をさ</p>

推進室	せていただいている。
委員	年1回の企画というのは、本当にオリジナルな企画をやっているのか。パッケージというか他の館でやっている企画をまわしてもらうとか、いろんなやり方があると思うが基本的にどんなスタンスで企画をしているのか。
おもてなし観光推進室	学芸員がどこから資料を借りるかというところから企画してやっているオリジナルのものである。この館はコンパクトな施設であるので、他の大きな館でやっている比較的大規模なものはフィットしない。展示スペースは限られているが、毎年、知恵をしばってやっている。
委員	企画を魅力的なものにするために、運営審議会などの組織はあるのか。
おもてなし観光推進室	条例で運営協議会を設けなければならないとなっていて、現在、7名の方に委員になっていただいている。年に1回協議会を開いて新規の展示の内容とかその年度の展示や運営について、また次年度はこうしたほうが良いということを協議していただいている。専門家の方々なので、いろいろなご意見やアイデアをいただいている。
委員	私も先日行ってきたところである。飛び出す絵本の企画をやっていたときに学生に見せたくて初めて行った。庭園もあって、なかなかおもしろい。 橘曙覧が見た景色を重ねるなど、空間の見せ方、景色の見せ方も、もっと工夫できるのではないかと。当時の風景と重ね合わせてみる仕掛けとか、もっと館全体の魅力を上げることができるのではないかと思った。
委員	広告はどのようにやっているのか。
おもてなし観光推進室	フリーペーパーなどの媒体にもお願いしている。

～～ 委員同士での協議 ～～

～～ 総括 ～～

座長	<p>いろいろな意見がでたが、委員会の結果としては「再構築」となった。その理由としては、まず、小規模で特殊な記念館、文学館で、また福井市が運営するという施設であるので、橘曙覧を軸にするとなると本当に何を企画展として市民に出していくかということをもう一度考えていただきたい。</p> <p>単に著名な文学者を全国いろんなところから探してくるというのも、確かにそれは来場者数を増やすにはいいのだろうが、下手をすると客寄せパンダになりか</p>
----	---

ねないところがあり、本来、この記念館がやるべきことはなんだったのかという話に、だんだんずれていく可能性もあるのではないか。

年間5回の企画のうち4回は橘曙覧ということであるが、福井にゆかりの文学者という切り口で5回のうち何回か企画展や取組を、もうちょっと積極的に打って出て、福井の文学というものを市民に見ていただく、学んでいただくという観点でもう一度、再構築的に考えてもらいたいというのが、委員会のまとめと考える。

なかなか採算的にとれないというのは現場の苦勞としてあるとは思いますが、これは公共的なものだから採算がとれなくてもいいんだというのではなく、やはり努力目標としては採算ラインのほうを向きながら取組んでいただきたいというのが、委員の総意である。

非常に難しく、館の運営全体という話にまでなったが、この事業のとらえかたについての委員の意見として受け止めていただけたらと考えている。

以上である。